

## 来週の市場とレート予想

上田八木短資株式会社

	2/22(月)	2/23(火)	2/24(水)	2/25(木)	2/26(金)
無担保O/N	▲ 0.008% ~ 0.001%				
銀行券	+ 300	△ 1,000	△ 1,000	△ 2,000	△ 2,000
財政債	△ 41,600	+ 2,000	+ 3,000	△ 4,000	+ 4,000
資金需給	不 41,300	余 1,000	余 2,000	不 6,000	余 2,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還 (3M・1Y) 国債発行(5年)			国債発行(40年)	
オペ期日	共通担保(全店) △ 2,800 CP等買入 △ 300 国債補完供給 + 500				
オペスタート	共通担保(全店) + 2,300	短国買入 + 17,500 国債買入 + 12,700			
(日本)	公社債投資家別売買高 (1月)	日銀営業毎旬報告(2月20日) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額	企業向けサービス価格指数 (1月)	木内日銀審議委員講演 対外対内証券売買	CPI(全国1月 ・東京都区部2月)
(海外)	欧 ユーロ圏総合PMI(2月) 欧 ユーロ圏製造業PMI(2月)	米 S&P/ケース・シラー住宅価格 指数 独 Ifo景況感指数(2月)	米 新築住宅販売件数(1月) 米 セントルイス連銀総裁講演	米 新規失業保険申請件数 米 耐久財受注 米 FHFA住宅価格指数 (12月) 欧 ユーロ圏マネーサプライ(1月)	米 GDP(4Q、改定値) 米 ミシガン大学消費者 マインド指数(2月、確定値) 欧 ユーロ圏景況感指数 (2月)

## 【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	▲0.08 ~ 0.001
SPOT 2M	▲0.08 ~ 0.001
SPOT 3M	▲0.08 ~ 0.001
SPOT 6M	▲0.08 ~ 0.001

## &lt;インターバンク&gt;

日銀当座預金残高は週初、年金定時払い等により前週末対比5兆円強増加し、256兆円台から始まり、その後は国債買入オペ・短国買入オペ等により増加し258~259兆円台で推移し、259兆円台で越週した。無担保コールON物は、15日0.07%台で取引されていたが、マイナス金利導入初日となる16日はゼロ%近傍が出合いの中心となり、17日には2006年2月以来約10年ぶりにマイナス水準での取引が見られ、以降マイナス金利での取引も徐々に増えていった。加重平均金利は15日0.074%、16日0.001%、17日▲0.002%、18日▲0.009%、19日▲0.008%と推移した。ターム物でも一部ゼロ%を下回る水準での取引が見られ、1W~1M物で▲0.01~0.001%の出合い。

マイナス金利導入前(15日)と直近(18日)の市場残高を比べると、無担保コールは7兆円台から2兆円台に、有担保コールは8兆円台から1兆円台にそれぞれ減少している。来週の材料としては、国内は木内日銀審議委員講演(25日)等が挙げられる。

## 【オープン市場】

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.005
TDB 3M	▲0.200 ~ 0.000
現先(on/1w)	0.001 ~ 0.030

## &lt;CP&gt;

今週の入札発行額は約6,000億円で、期落ち額約4,900億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.0010%割れ~0.010%近辺を中心に推移した。現先レートの中心は、0.001%~0.030%程度で推移した。来週の期落ち額は約14,400億円程度となっている。

## &lt;TDB&gt;

18日に国庫短期証券3M第590回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.1002%(前回債△0.1102%)、平均落札レートは△0.1090%(前回債△0.1335%)と前回債から利回りは上昇した。セカンダリーは3Mで△0.108%近辺の出合い。6Mは△0.165%近辺の地合い、1Yは目立った出合いは見られなかった。来週は25日に3Mの入札が行われる予定である。

## &lt;レポ&gt;

足許GCは、週初0.00%~△0.01%のレンジで推移し、週央には△0.02%~△0.03%の出合いが中心となった。短国1Yと3Mの発行日となる22日受渡でも大半がマイナスレートで取引され、短国・国債買入が3兆200億円オファーされた23日受渡では△0.04%台まで低下した。SCは5年126回債が19日受渡のO/N物で△0.10%~△0.15%の出合い。10年341回債は23日受渡のO/N物は△0.10%~△0.25%、ターム物では△0.20%台の出合いも見られた。他では5年債124・125回債、10年債328・338・340回債、40年8回債に引き合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。